

# 「夢ナビ」で出会った、 憧れの先生の研究室へ

— 明治大学 農学部 池田研究室 —



Interview  
01

はるか  
東郷 晴夏さん

明治大学  
農学部4年生  
(取材時)



夢ナビライブ2012東京会場に高校2年生で参加  
(東京都 私立 昭和女子大学附属昭和高等学校  
卒業)。大学へは、都内の自宅から通学しています。

夢ナビライブに参加して  
進路が明確になりました

Q 夢ナビライブに参加した経緯を  
教えてください。

高校2年生のときに、学校の授業の一環として、全員必修で夢ナビライブに参加しました。みんなで行って、それぞれ自分の興味のある講義ライブを選択して聴くという形でした。

Q 夢ナビライブに参加したことで、  
どんな変化がありましたか？

夢ナビライブでは、文系理系を問わず、いろいろな先生の講義を聴き、その中で自分の興味の方向性を確かめることができました。その後、夏休みにオープンキャンパスに行くなどして考えていき、自分が

理系科目のほうが得意だったということと、突きつめれば「食」というのは人間の原点だという考えにたどり着いたことから、農学部に行きたいというところまで進路を絞り込むことができました。夢ナビライブに参加してから2か月くらいの間のことです。

Q そのときの夢ナビライブでは、  
池田先生の講義ライブは  
聴いていなかったそうですね。

そうですね。夢ナビライブのあと、本格的に農学に興味を持って、その夏にオープンキャンパスで明治大学の農学部を訪ねました。さらに、次の年も明治大学のオープンキャンパスに行ったのですが、そのときに行われた模擬授業の担当がたまたま池田先生で、それを聴いて面白いなと思ったのが、先生との最初の出会いでした。

夢ナビライブに先生が参加されていたことは後から知ったのですが、どうしてもそのとき講義を聴かなかっただらうと、すごく後悔しました(笑)。

Q 池田先生の研究室に入った理由と、  
入ってみて感じたことを  
教えてください。

「食」を研究したいと考える中で、やはり将来性のある農業や生産物を扱いたい





「夢ナビ」で出会った、憧れの先生の研究室へ



興味を一番強く持っていましたし、夢ナビライブで植物工場のお話を聞いたときのインパクトが自分の中にずっと残っていました。先生の研究室は、現場の農家さんの見学をさせていただく機会が多く、ほかの研究室にはない魅力を感じたので、入室を希望しました。

実際に入ってみて、予想通りというより、予想以上でした。自分が今までにしてこなかったような経験をさせていただいているので、本当にありがたいと思っています。

と思っていました。池田先生の授業の中で、「イチゴはクリスマスシーズンに需要が増えるけど、旬はもう少し後だから、早採りができるシステムを使うんだ」という話を聞いて、これは社会に貢献できる、将来性のある研究だと思いました。実は私がイチゴが大好きという理由もあります（笑）。先生のもとでならイチゴを扱った研究ができるのではないかと考えました。

池田先生の研究室は、座学だけでなく、実際の生産現場に連れていってくださるというのがとても魅力的です。また、「研究をしましょう」という自己満足に終わってしまうのではなく、今も企業との共同研究をやらせていただいているので、何かしら社会の役に立っている実感と面白さがあります。

Q 今振り返って、夢ナビライブに参加したことをどう思いますか？

大学は中学校とは勉強スタイルがまったく変わってしまうので、自分でちゃんと選ばないと後悔するということだけは、その頃から漠然とわかっていました。夢ナビライブに参加することで、自分が学びたいと思える学問を決めることができましたし、進学への意識が高まったから、大学受験に向けて準備を始めるきっかけになった、とても大切なイベントだったなと思います。

私は一般入試ではなくて、自己推薦で大学に入ったのですが、2年生の夏の時点で進路を決めていたから、3年生の秋には入学を決めることができました。早く準備していたからこそ、早く決められたと思っています。



Interview 02

齊藤 謙さん  
明治大学 農学部4年生 (取材時)

夢ナビライブ2013東京会場に高校3年生で参加(静岡県立 浜松西高等学校卒業)。大学の近くで一人暮らしをしています。

高3で出会った講義ライブで受けた強烈なインパクト

Q 夢ナビライブに参加した経緯を教えてください。

高校3年生のときにサッカー部を引退して、将来こんなことをやりたいという方向性が全然決まっていなかった自分に対して、母親が夢ナビライブの資料を持ってきて、「こういうイベントがあるから、行ってみたらどう？」と勧められたのがきっかけです。恥ずかししながら、高校1、2年生の頃は部活のことしか考えていなかった、理系科目のほう得意だったから理系に決めたと程度で、進む学部も決めていませんでした。いざ部活を引退してから考えたときに、何も情報がない状態で進路をせめてしまうことのほう

Q これから進路を決める高校生に対して、アドバイスはありますか？

高校生のときにしかできないことがたくさんあるので、そのときそのときを大事にしてください。自分は部活と勉強の両立はうまくできませんでしたが、それぐらい部活に熱中できたということも、出会った仲間も、今後の人生にとって大事なものだと思っていますので、そこにあまりマイナスの感情を持っていません。バランスをとりながら、そのとき自分が大事にしたいことに取り組めればいいのではないのでしょうか。

自分は高校3年というタイミングでしたが、夢ナビライブに参加したことは自分にとって大きな意味があったと思っています。人はどうしても身近なことに意識が行きやすくて、特に高校生の頃は「コミュニティが狭くなりがちだ」と思います。夢ナビライブに行くと、いろいろな情報を得て、自分で感じ、視野を広げる機会を得たことはいい経験でした。夢ナビライブでの学問との出会いはほかの人より遅かったかもしれませんが、人それぞれに適したタイミングというものがあります。自分にとってはとてもいいタイミングで出会えたと思っています。



が怖いと感じていたもので、ちょっと遅いかもしいけど、そういう機会があるならと、夢ナビライブに参加しようと思いました。

Q 池田先生の講義ライブを聞いてどう感じましたか？

祖母が農業をやっていたので、小さい頃から畑で作業をしている祖母を見ていました。農業は身近にありましたが、泥臭いとかが重労働といったイメージを持っていました。ところが、池田先生の研究している「植物工場」は、清潔で、土も使わないし、安定生産できるという話を聞いて、今までのイメージが一変して、こういう農業もあるんだなと自分の中に印象つける強いインパクトがありました。

Q 夢ナビライブに参加したことで、どんな変化がありましたか？

夢ナビライブを聞いてから、農学部について調べる機会が増えました。ほかにも理工学部なども調べましたが、自分もともと生き物自体が好きだったということもあって、農学部に進学しようと思いました。

Q 池田先生の研究室に入った理由と、入ってみて感じたことを教えてください。

農学科というのはけっこう学問の幅が広くて、畜産学や造園も範囲に入っています。そういった授業も受けていましたので、やはり植物を育てることに対しての



Interview 03

池田 敬先生  
明治大学 農学部 生産システム学/植物計測学/施設栽培学専攻 准教授

夢ナビライブでは、2012年から6年連続で、農業に関する講義ライブを実施しています。

一人でも多くの農業サポーターを育てるのが私の使命

Q 夢ナビライブに6年間、どのような思いで臨まれていますか？

夢ナビライブの講義リストを見ると、農学の先生が少ないですよ。だから私は、農学全体を背負っているというくらいの気概を持って臨んでいます。農学に興味のある生徒を一人でも多く引き込んでやろうという気持ちです。結果としてこの大学に入ることになってもいいので農学に興味を持ってほしいと、本気で思っています。これを言うとうちから怒られるかもしれませんが……(笑)

もちろん農学部に入っても、必ずしも農家になる必要はなくて、農業に関して

理解を示す人材を育てていくのが私の仕事だと思っています。言ってみれば「農業サポーター」を育てているつもりです。いろいろな業界に農業を支える人がいるという状態になれば、国全体がもっとよくなるのではないかと考えて取り組んでいます。

Q かつて講義ライブを聴いた生徒が、先生の研究室で学んでいることを、どう感じていますか？

夢ナビライブには毎年参加してきましたが、その生徒が自分の研究室に来てくれるという効果があるなんて、正直夢にも思っていなかったもので、うれしいですね。おかげで、さらにやりがいが出てきました。

Q 高校生に対して、進路選択についてのアドバイスがあればお願いします。

まずは偏差値で大学を決めてほしくないということです。何がやりたいかということ、自分自身とよく相談してください。やっぱり「好きこそ物の上手なれ」なので、自分の一番興味のある道に進んでほしいですね。そして、例えば数学が苦手だからこの学問はやりたくないというような考えは、あまりにも短絡的です。大学に入ってから勉強すればいいだけのことなので、やりたいことなら苦手科目が多からんでいようと、勇気を持って飛びこんでほしいと思います。

